

平成 25 年度 第 2 回 SPring-8 ユーザー協同体(SPRUC)

評議員会 議事録

日時： 2013 年 9 月 8 日(日) 11 時 30 分～12 時 30 分

場所： 京都大学・宇治キャンパスおうばくプラザ セミナー室 4・5

出席者： 今泉公夫，岡島敏浩，岡本亨，金谷利治，桜井健次，大門寛，巽修平，中川敦史，野間敬，
渡辺義夫，雨宮慶幸（会長），岸本浩通，工藤喜弘，坂田修身，坂田誠，堂前和彦，中井泉，
水木純一郎

幹事： 籠島靖，佐藤衛，佐々木聡，佐々木園，久保田佳基，杉本宏，高尾正敏，西堀英治，原田慈久

オブザーバ： 高田昌樹，鈴木昌世，

事務局： 牧田知子，杉本正吾，坂川琢磨 (敬称略)

議事

- ・ 前回議事録が承認された。

報告事項

1. 活動報告

資料に基づき西堀庶務幹事より活動状況が報告された。

報告の中で、細則と内規の改訂は報告ではなく、審議事項とするべきとの指摘があり、審議事項に変更した。審議の結果、改訂が承認された。

2. 放射光科学将来ビジョン作業部会報告

資料に基づき高尾幹事より放射光科学将来ビジョン作業部会の活動が報告され，以下のような意見交換があった。また，作業部会の今後のスケジュールについて説明があった。

- ・ Q. 日本全体に近い放射光科学への提言をしているが，最近放射光学会がまとめた将来ビジョンとの関係はどのようになっているのか？
A. 大型施設マスタープランをまとめるための公開討論会において日本の放射光科学がどうあるべきかを検討してきた。その検討内容は作業部会のものと一致している。
- ・ 放射光学会から大型施設マスタープランを提出し，9月20日にヒアリングが予定されている。ユーザコミュニティがまとまっていることは大変重要である。
- ・ Q. 放射光コミュニティとして，ヒアリングには UVSOR の賛同も得て行く方が良いのではないか。
A. UVSOR からはすでに賛同を得ている。HiSOR からも同様に賛同を得ている。

3. 研究会組織検討作業部会報告

資料に基づき中川利用委員長より研究会組織検討作業部会の活動が報告され，以下のような意見交換があった。パブリックコメントや本シンポジウムでのパネル討論を踏まえて，来年度新しい体制での発足を目指す。

- ・ 研究分野の分け方は，時限をつけるべきではないか。
- ・ 予算は重点配分を考えている。例えば分野融合型研究グループに対してまとまった予算を配分する。
- ・ 会員は個人ベースで入会するので会員の繋がりを築き難い。なぜなら会員それぞれに目的が異なっているからである。研究会の役割としては，情報発信，BL との相互の情報交換と考えられる。
- ・ 次期計画は BL のくくりで検討するべきものと考えられる。

審議事項

1. 大学院連合検討 WG 設置 (資料 5)

2013 年度の活動計画として、大学院連合検討 WG の設置計画について西堀幹事から説明があった。次のような意見交換の後、WG の立ち上げが承認された。

- Q. 講師は誰がすると想定しているのか？
A. SPring-8 の研究者や各大学で大学院の授業をしている教員であり、On the Research Training ができるメリットを活かしたい。夏の学校などをうまく活用してできるところからやっていく。まず、カリキュラム作りをすることが重要であり、良いカリキュラムができれば、各大学院専攻単位で単位化が検討されるかもしれない。
- Q. 大学教員は大学での授業に加えて SPring-8 で講義をすると負担が大きくなると予想されるが、理解が得られるのか。また例はあるのか？
A. 施設側から大学に行って集中講義などを行っている実績はある。しかし、内容はごく一部しか紹介できない。大学においても例えば半期で放射光の基礎からしっかり教えている例は少ない。それらは放射光に関わる大学院生にとって、知っていれば大きなメリットになるのではないかと。また、教員の立場としては、組織的に行い、聴衆が多ければやりがいがあると考えられる。
- Q. 具体的なイメージがわきにくい。夏の学校の拡張版と考えればよいのか？ カリキュラム (15 コマ) を作り、何人か講師が担当して、それをまとめて夏の間に講義するのか？ 夏の学校では単位になる大学 (学生) とならない大学 (学生) がいる。
A. 夏の学校は兵庫県立大、岡山大と連携して行っていて、単位を出しているところはある。夏の学校や Cheiron school を踏まえて、もう少し規模の大きなものを考えている。
- Q. 単位を出すことを考えているのか？
A. 単位を出すかどうかは大学が判断することであり、良いカリキュラムができれば大学が検討するかもしれない。リーディング大学院などと連携してプラットフォームを作ることが重要であろう。
- Q. 学生の立場で SPring-8 を利用している人と、企業でツールとして使っている人など様々である。人材育成や技術継承など目的も様々であるので、間口を広げてそれらに対応できるようにしていただくと良いと思う。企業としてはありがたい取り組みである。そのような様々な状況を包含した実働も含めて考えているのか？
A. WG ではリーディング大学院や夏の学校、教育に意識のある方の意見を聞きながら検討していきたい。企業の人も講師として入っていただくことも重要であろう。

2. SPring-8 ユーザー組織設立 20 周年事業 (資料 6)

資料に基づき、西堀幹事より SPring-8 ユーザー組織設立 20 周年事業「放射光科学賞」の素案について説明され、次のような意見交換があった。

- Q. 賞の授与は 20 周年の 1 回だけか？
A. 20 周年を記念に賞を作り、毎年授与するつもりである。
- Q. 名称はよく考えるべきである。「放射光科学賞」という名称は、対象の分野が非常に広く、放射光科学すべてを包含するものであるため SPRUC が創設する賞の名称としては相応しくないのではないかと。例えば、「ひょうご SPring-8 賞」の場合は、ある時期から兵庫の産業利用に対し受賞者を一人としたことにより、賞の性格がクリアになった。賞を創設する場合は、名称、対象など

かなり慎重に考えるべきである。少なくとも提案の段階では、「仮称」の文言を入れるべきである。賞は受賞者を公募するかしないかは大きな選択であり、12,000人の会員から選出するのは大変難しい。

A. 指摘のとおりであるので、慎重に検討していきたい。

連絡事項

1. 西堀幹事より次期評議員選挙の日程等について説明があった。
2. 西堀幹事より来年度からの代表機関について、以下の説明があった。
代表機関は2年ごとに見直しすることになっているが、SPRUCはまだまだ立ち上げ期であり、組織等も徐々に固まりつつある状況であることから、代表機関の選出においても来年度も引き続き現行の機関にお願いすることとしたい。昨日の代表機関会議において雨宮会長から打診し、ほぼ内諾も得られていると説明があった。本件については承認し、この後の総会において会員に諮ることとした。
3. 次回の評議員会の開催予定が連絡された。
今回は、第27回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム（広島国際会議場）の開催期間2014年1月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝)のいずれかのランチタイムに開催を予定している。
4. 来年度のSPring-8シンポジウムの開催について西堀幹事より、豊島教授を実行委員長として東京大学（本郷キャンパス）で平成26年9月13日(土)、14日(日)の2日間で開催する準備を進めていると報告があった。

その他

1. JASRI 鈴木研究調整部長より、今年度SPring-8についての国の中間評価があった。その中ではSPRUCとの連携が謳われており、今後も情報を共有しながら連携していきたい旨、報告があった。

配布資料：資料1. 平成25年度第1回評議員会 議事録（案）

資料2. SPRUC 会則・細則

資料3. SPRUC 予算執行状況

資料4. 放射光科学将来ビジョン白書骨子

資料5-1. 研究会組織検討作業部会中間報告書

資料5-2. 研究会組織検討作業部会パブリックコメント

資料6-1. SPRUC 大学院連合実施計画書（案）

資料6-2. SPRUC 大学院連合作業部会設置申請書（案）

資料7. SPring-8 ユーザー組織設立20周年記念事業放射光科学賞創設趣意書（案）